

# 令和元年度 事業報告書

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

# 令和元年度 事業報告

一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会

## 1. 法人総括報告

当協会は、CEATEC JAPAN（通常総会后、CEATECに改称）、Inter BEEの開催にあたり、主催者と緊密に連携し、出展企業のビジネス機会の創出に貢献することを目指し、企画、運営に努めた。また、Society 5.0を基軸に関係省庁、国内外の関係団体ならびに関連産業との連携を緊密化し、業界団体が主催する国際ビジネス展示会としての機能強化を図った。

## 2. 協会運営事業実施報告

総会、理事会、運営役員会等を次の通り開催し、当協会の運営に関する重要事項を審議し、各種事業を円滑に実施した。

### (1) 総会

○第14回通常総会(令和元年5月29日)を開催し、次の議案を決議した。

- ・平成30年度事業報告及び決算報告承認の件
- ・令和元年度事業計画(案)及び収支予算(案)承認の件
- ・定款一部変更の件
- ・役員選任の件

### (2) 理事会

○第44回書面理事会(令和元年5月10日)を開催し、次の審議事項を承認した。

- ・平成30年度事業報告案承認の件
- ・平成30年度決算報告案承認の件
- ・定款一部変更の件
- ・役員選任の件
- ・第14回通常総会の議案承認の件

○第45回書面理事会(令和元年5月29日)を開催し、次の審議事項を承認し、報告を行った。

- ・代表理事の選定
- ・会長・副会長の役職役員の選定
- ・会員企業の退会報告及び会員の状況

○第46回理事会(令和元年11月21日)を開催し、次の報告を行った。

- ・令和元年度業務執行状況報告
- ・会員企業の退会報告及び会員の状況

○第47回書面理事会(令和2年3月24日)を開催し、次の審議事項を承認し、報告を行った。

- ・令和2年度事業計画(案)承認の件
- ・令和2年度収支予算(案)承認の件
- ・会員企業入会審議承認の件
- ・定款第36条第2項に基づく、その他の重要な業務執行に関する件
- ・令和元年度業務執行状況報告
- ・会員企業の退会報告及び会員の状況

### (3) 運営役員会

○第 46 回運営役員会(令和元年 5 月 10 日)を開催し、次の事項を審議した。

- ・ 第 44 回書面理事会議案の件
- ・ 第 14 回通常総会議案の件
- ・ 第 45 回書面理事会議案の件

○第 47 回運営役員会(令和元年 11 月 19 日)を開催し、次の事項を審議した。

- ・ 第 46 回理事会議案の件

○第 48 回書面運営役員会(令和 2 年 3 月 18 日)を開催し、次の事項を審議した。

- ・ 第 47 回理事会の開催方法に関する件
- ・ 第 47 回書面理事会議案の件

## 3. 展示会事業実施報告

### 3-1. 「CEATEC 2019」

#### (1) 実施状況

CEATEC 2019 は、10 月 15 日(火) から 18 日(金) までの 4 日間、千葉市・幕張メッセにおいて、27 省庁・団体の後援、52 団体の協賛を受け開催した。

今回で 20 回目を迎える「CEATEC JAPAN」は、2016 年に脱・家電見本市を宣言し、社会を変えていく原動力である CPS/IoT の総合展へと大きく舵を切り、本年 20 年目を迎えるにあたり、展示会名称を「CEATEC」と改称し、「つながる社会、共創する未来」を開催テーマに、業界の垣根を超え、政策・産業・技術を連携して、IoT・ロボット・人工知能(AI)を活用した「未来の社会を世界に向けて描く Society 5.0 の展示会」として未来社会のデザインを広く発信した。

本年の開催規模は、出展者数 787 社/団体(うち海外:24 カ国/地域から 250 社/団体、2018 年実績:725 社/団体、昨年比 8.6%増)、小間数は 2,122 小間(2018 年実績:1,786 小間、昨年比 18.8%増)であった。開催期間中の来場者数は、合計で 144,491 名(2018 年実績:156,063 名、前年より 11,572 人減、前年比 7.4%減)と会期直前に上陸し関東・甲信・東北地方に多大な影響を与えた台風 19 号の影響を受け、初日の来場者数が大幅に減った。また、海外来場者数は 2,096 名(2018 年実績 1,985 名)であった。開催期間中来場した報道関係者は 1,042 名(2018 年実績:1,359 名、昨年比 23.3%減)となり、CEATEC に関する情報が連日国内外のオンラインニュース、テレビ、新聞等で発信された。

開催初日となる 10 月 15 日(火)は、展示会場オープンに併せ、幕張メッセ・コンベンションホールにて、20 周年を祝い記念セレモニーを開催し、主催代表の遠藤 信博 会長による記念祝辞、これまで 20 年間の歩みの映像を放映し、最後に本展示会に 20 年連続でご出展頂いている 19 の企業/団体を表彰した。

また、同日夕方に、都内・パレスホテルにて、CEATEC 2019 オープニングレセプションを開催、来賓として、経済産業副大臣の牧原 秀樹 様、総務副大臣の寺田 稔 様、一般社団法人 日本経済団体連合会 副会長の片野坂 真哉 様をお迎えし、官公庁関係者、各社経営幹部などの 754 名(前年 763 名)にご参集いただき、CEATEC 2019 の成功に向けて、業界全体が一丸となって取り組む姿勢を見せるとともに、参加者同士が懇親した。また、会場では「CEATEC AWARD 2019」の総務大臣賞および経済産業大臣賞が発表され、受賞企業に対して両副大臣が直接賞状と盾を贈呈した。

本年のコンファレンスプログラムは、20周年記念特別基調講演として、米マイクロソフト IoT and Mixed Reality Sales 担当、バイスプレジデントのロドニー・クラーク氏と、米マイクロソフト Partner Program Management 担当のイアン・レグロー氏が登壇し、「Society 5.0 を実現する Intelligent Edge Intelligent Cloud」をテーマに講演が行われた。

「CEATEC KEYNOTE」「CEATEC SUMMIT」基調講演は、本年は、会期4日間にわたって1,000名規模の会場にて連日開催し、各産業界をリードする企業経営者が登壇する「CEATEC KEYNOTE」に加え5GやAIなどをテーマにパネルディスカッションを実施した。「CEATEC SUMMIT」では、多数のトップリーダーが登壇した。開催初日に開催した「CEATEC KEYNOTE」では、ANAホールディングス株式会社 代表取締役社長 片野坂 真哉氏、株式会社JTB 代表取締役会長 田川 博己氏、JapanTaxi 株式会社 代表取締役社長 川鍋 一朗氏が登壇し多くの方に聴講頂いた。コンファレンスは、初日の「CEATEC KEYNOTE」以外でも、Society 5.0に向けた取り組みとして、スマートホーム、自動運転、ヘルスケアなどの多彩なテーマで、162の講演（前年：163講演）が行われた。聴講者は、延べ28,228名（前年：30,748名）となり、大盛況を博す結果となった。

## (2) 収支報告

本年は、出展者数787社が、2,122小間の出展、その出展小間料および、広告・印刷・施設・電力等を含む、本事業の収益合計が、565,234,919円となった。それに対して、事業費支出は、515,488,657円となり、法人運営(人件費、事務所家賃等)の振替85,000,000円を加算した支出合計は、600,488,657円となったため、単年度の収支差引は、35,253,738円の赤字となった。

当該事業には、前期からの繰越金が31,038,916円有り、その差引後も赤字が4,214,822円残るため、前述の「2.協会運営事業実施報告」の(2)理事会の3月24日第47回書面理事会の第4号議案「定款第36条第2項に基づく、その他の重要な業務執行に関する件」にて、事業繰越金による補填後の赤字を法人全体繰越金にて補填する旨を承認いただき、処理を行った。

## (3) 会場構成

本年は、昨年より展示会場を1ホール増やし、ホール2～8で各社の展示を展開した。

開催テーマとなるサービス産業を中心とした複数の共創により「2030年のまち」を構築する企画展示の「Society 5.0 TOWN」を全ホールの中心に、企業/団体展示は、「トータルソリューション」、「スマートX(スマートファクトリー、スマートライフ・モビリティ等)」、「デバイス&テクノロジー」の3つテーマに分け、国内外のスタートアップと海外パビリオンで構成する「Co-Creation PARK」を併せて、4テーマで囲う構成で会場全体を利用した。

また、会場全体の入り口部分となるホール8に、もう1つのテーマとなる「学生交流ラウンジ」、また、「イノベーショントークステージ」を配置した。

## (4) 実施内容

### ①Society 5.0 TOWN ～「2030年のまち」を構築する企画エリア～

Society 5.0 TOWNは、サービス産業を中心とした複数企業による共創型の参画により、2030年の未来の「まち」で、実現が見込まれるエネルギー・交通・インフラ・防災などの「都市機能サービス」、物流・販売・金融などの「商業サービス」、医療・娯楽・生涯学習などの「生活サー

ビス」と、多様なサービスを各業界のフロントランナーの参画を得て初めて展開するもので、昨年まで主催者企画として展開していた「IoTタウン」を進化・発展させた企画となる。

CEATEC 初参加となったモビリティ、運輸、建設、電気・ガス業界からの参画企業を迎え、モノとサービスが一体化したソリューション・サービス (B2B2C) を提案した。また、複数の業種・産業が技術とノウハウを共創することで生み出されるモノやサービスを紹介する「共創ゾーン」も併せて展開した。

#### ②Co-Creation PARK ～次世代を担うフロントランナーが集結するグローバルエリア～

Co-Creation PARK は未来を担う国内外のスタートアップ企業および海外諸機関のパビリオンを複合的に展開した企画エリアで、2018 年まで別々で展開していた主催者企画「スタートアップ&ユニバーシティゾーン」(国内スタートアップ企業および大学・教育機関が対象)と「Co-Creation Park」(海外スタートアップ企業および海外諸機関が対象)を統合した。

#### ③20周年特別企画

##### ■モビリティ (スマートモビリティイノベーション)

CEATEC 2019 では、Society5.0 (超スマート社会) の実現とそれを体現するため、スマートモビリティイノベーションとして、自動運転という新しい体験を CEATEC 会期中に展示会場周辺の公道を実走させ、新たな移動手段を体験いただいた。

##### ■スマートホーム

人口減少により社会も大きく変わろうとしている今、家に求められるユーザーのニーズは、多種多様になっている。IoT、AI、ロボット技術など、技術の進展により、Society5.0 社会は直ぐそこまで近づいている現状を、CEATEC では、スマートライフを実現する「ホーム」に着目し、テクノロジーとサービスによるユーザーが、新しい価値を感じられる場を提示した。

##### ■5G

「5G SUMMIT」と「5G Sessions」の2つのセッションを開催。

- ・「5G SUMMIT」 10月16日(水) 10:30-12:00 開催 【聴講者数 1,687名】

通信事業者の首脳が一堂に会し、「5Gに関する各社の取組や今後の展望」に関するキーノートセッションおよび「一般ユーザーや利活用企業の関心が高い事項」に関するパネルディスカッションを行い、5Gの商用化を国内外にアピールした。

- ・「5G Sessions」 10月16日(水) 14:00-16:30 開催 【聴講者数 844名】

「5G国際ワークショップ2019」を開催し、前半のセッションでは商用化に取り組む世界の最新動向について、欧州・アジア地域の活動を紹介した。

#### ④その他

##### ■イノベーショントークステージ

CEATEC の開催テーマ「共創」「つながり」をキーワードに出展各社とユーザー企業、パートナー企業における共創の重要性や成功事例などをトークショー、対談、パネルディスカッションなどを交えながら行った。

##### ■学生交流ラウンジ

学生交流ラウンジは、様々な産業分野で未来を担う貴重な《明日のIoT人材》となる学生たちが、会場内で体験し、感じ考えたことを踏まえながら、自分たちのための空間として出展者との出会いや交流を行える場として、CEATEC を業界のオープンキャンパスとして展開

- ・リクルートと連携して学生を来場誘致
- ・オープンステージ：見学ガイダンス、セミナー、トップリーダーと学生との対談
- ・Meet-up エリア：先輩社会人との交流、企業展示ブースガイダンス
- ・展示エリア：企業 PR ポスター展示およびテーマ(CASE)展示（企画 半導体部会、電子部品部会）

## (5) CEATEC AWARD 2019

CEATEC 2019 では、開催テーマ「つながる社会、共創する未来」のもとに、CPS/IoT による「Society 5.0」の実現を目指し、新たな価値と市場の創造・発展に貢献、関係する産業の活性化に寄与することを目的に「CEATEC AWARD 2019」を実施した。

### 総務大臣賞

3D センシング/AI による自動採点システム  
富士通株式会社

### 経済産業大臣賞

業界最高水準の容量を持つ酸化物全固体電池  
株式会社村田製作所

### 部門賞

#### トータルソリューション部門

##### ■グランプリ

点検現場がラクになる。低消費電力 IoT カメラと機械学習で計器点検を効率化する

「LiLz Gauge (リルズ ゲージ)」

LiLz 株式会社

##### ■準グランプリ

「SoundUD」により実現する音のユニバーサルデザインとイノベーション

SoundUD 推進コンソーシアム

#### スマートX部門

##### ■グランプリ

製造業における部品調達のデジタル革命「meviy」(メヴィー)

株式会社ミスミグループ本社

##### ■準グランプリ

糖質ダイエットモニター

京セラ株式会社

#### デバイス/テクノロジー部門

##### ■グランプリ

チップ型セラミック二次電池 EnerCera®シリーズ

日本ガイシ株式会社

##### ■準グランプリ

匂いセンサ 「nose@MEMS」

第一精工株式会社 / 共同応募会社：凸版印刷株式会社

## 特別賞

### ■Society 5.0 TOWN 賞

アバター社会インフラ

ANA ホールディングス株式会社

### ■Co-Creation PARK 賞

スマホから病児保育施設の予約ができる「あずかるこちゃん」

CI Inc.

○受賞内容は会期中、会場正面に掲示し、各社の研究開発意識の高さと受賞の栄誉を称え、受賞内容を大々的に展開、CEATECの見どころとして紹介した。

## (6) 数値関連

○出展者数／出展小間数

エリア	出展者数			出展小間数
	国内	海外	合計	
企業／団体展示				
トータルソリューション	212	28	240	634
スマートX	47	3	50	187
デバイス&テクノロジー	115	104	219	527
企画展示：Society 5.0 TOWN	69	0	69	578
企画展示：Co-Creatin PARK	94	115	209	196
合計	537	250	787	2,122

○海外出展状況

24ヶ国/地域・250社/団体

アジア地域・7ヶ国/地域・134社/団体、北米地域・2ヶ国/地域・46社/団体、

欧州地域・12ヶ国/地域・62社/団体、中東地域・1ヶ国/地域・5社/団体、

中南米地域・1ヶ国/地域・2社/団体、大洋州地域・1ヶ国/地域・1社/団体

○登録来場者数

	10月15日(火)	10月16日(水)	10月17日(木)	10月18日(金)	合計
来場者	22,142	28,321	32,871	36,673	120,007
プレス	569	193	131	149	1,042
出展関係者	6,583	5,819	5,583	5,457	23,442
登録来場者合計	29,294	34,333	38,585	42,279	144,491

(参考:2018年実績合計:156,063名)

○コンファレンス聴講者数

	15日(火)	16日(水)	17日(木)	18日(金)	合計	2018年実績
セッション数	36	39	46	41	162	163
聴講者数	5,234	8,795	7,016	7,273	28,318	30,748

### 3-2. 「Inter BEE 2019」

Inter BEE 2019は、11月13日（水）から15日（金）までの3日間、千葉市・幕張メッセにおいて開催した。

#### (1) 開催スローガン

「WHAT WILL YOU DO NEXT? 新たなメディアの可能性を世界に伝えよう。」

Inter BEEは、1964年の東京オリンピックの翌年から開催し、本年で、55回目を迎えた。2017年から東京オリンピック・パラリンピックの直前開催にあたる本年までの3ヶ年をひとつのスパンとして捉え、超スマート社会「Society 5.0」の実現に向けてメディア&エンターテインメント産業の新たなユーザー体験を提示する場として、「コンテンツ」を中核に位置づけ、「つくる（制作）」「おくる（伝送）」「うける（体験）」の要素を網羅した「メディア総合イベント」に発展することを目指し、放送・通信分野で注目が高まる「スポーツ」にスポットを当て、協調性をもった企画イベントの展開を図った。

#### (2) 出展部門・構成

「プロオーディオ部門」

プロフェッショナルのニーズに応える、さまざまな高品位・高信頼性システムを集結。

「映像表現・プロライティング部門」

ライブエンターテインメントの世界を広げ、新たなメディア体験の可能性を追及。

「映像制作・放送関連機材部門」

世界をリードする4K8Kプロダクション、最新システムと技術を提案。

「ICT・メディアクロス部門」

放送・通信連携は新たなフェーズへ、メディアコミュニケーションがさらに拡大。

「特別企画」

##### ・ INTER BEE IGNITION

VR（仮想現実）、AR（拡張現実）、ホログラム等の映像表現技術や、ライブエンターテインメント技術を集め、新たな映像体験を訴求する企画を展示。

##### ・ INTER BEE CONNECTED

番組同時配信、キー局のネット戦略、OTT最新動向、視聴計測技術等、メディアビジネスの最新動向を集約して情報交流を促進する展示し、セッションを開催。

##### ・ INTER BEE EXPERIENCE

SRスピーカー体験デモと、高品質なヘッドフォンとマイクロフォンの試聴デモを展開し、来場者に体感していただく展示を展開。

##### ・ INTER BEE CREATIVE

ヒット作品のメイキング映像等を本企画限定で披露し、第一線で活躍する監督やクリエイターによる制作秘話や、最新の制作ツールの活用事例等を紹介する場の提供。

##### ・ INTER BEE SPORTS

スポーツ観戦の際の視聴の楽しみ方をさらに広げるため、その応用技術や現在追及されている最先端技術の展示を通して、来場者への浸透を図る。



- ・ INTER BEE 5G

5G のユースケースとして期待されるメディア&エンターテインメント分野での可能性の訴求を図る。5G 事業者と映像制作者、放送・配信事業者等のネットワークの場を展開。

### (3) 開催規模

国内外で積極的な出展誘致活動を展開し、昨年の 1,152 社/2,054 小間を上回る 1,158 社/2,125 小間（前年比出展者数 0.5%増/小間数 3.5%増）の出展を得た。

幕張メッセ国際展示場 全 8 ホール（54,000 m<sup>2</sup>）、イベントホール、国際会議場全館を使用して開催した。開催期間中の来場者数は、合計で 40,375 名（2018 年実績：40,839 名、前年比 1.14%減）と、ほぼ前年並みとなった。

#### ■デジタルコンテンツ EXPO 2019 を同時開催

最先端コンテンツ技術の国際イベント「デジタルコンテンツ EXPO」（主催：一般財団法人デジタルコンテンツ協会）を昨年に引き続き、Inter BEE 会場内で同時開催。

コンテンツの制作支援や表現を豊かにする多様な技術を紹介し、未来を体験いただくとともに、コンテンツ技術のメディア&エンターテインメント分野への活用を促進。

### (4) 収支報告

本年は、出展者数 1,158 社が、2,125 小間の出展、その出展小間料および、広告・印刷・施設・電力等を含む、本事業の収益合計は、562,026,048 円となった。それに対して、事業費支出は、492,321,809 円となり、法人運営（人件費、事務所家賃等）の振替 66,000,000 円を加算した支出合計は、558,321,809 円となったため、単年度の収支差引は、3,704,239 円を繰越すことになり、前期からの繰越金 24,784,051 円に加算し、28,488,290 円を次年度に繰越すこととなった。

### (5) Opening Session & Keynote/レセプションパーティ

#### ① Opening Session & Keynote

開催初日 11 月 13 日（水）午前 10 時より、国際会議場 2 階「コンベンションホール」において、映像・照明演出ステージで Opening Session を執り行った。

JEITA 遠藤 信博 会長からの主催者挨拶につづき、総務省 情報流通行政局 官房審議官 吉田博史 様、経済産業省 大臣官房審議官 小笠原 陽一 様をご来賓としてお迎えし、祝辞を賜った。

遠藤会長と来賓の総務省の吉田 様、経済産業省の小笠原 様と共に、基調講演講師の NAB 会長 ゴードン・スミス 様、スポーツ庁長官 鈴木 大地 様、日本放送協会 局長 緒方 一貴 様、オリンピック放送機構 CTO ソチリス・サラモーリス 様、同時開催 DCEXPO 主催の一般財団法人デジタルコンテンツ協会 会長 河口 洋一郎 様で、Inter BEE 2019 の開幕のフォトセッションを行った。

セッションに引き続き、ゴードン・スミス 様、鈴木 大地 様、緒方 一貴 様、ソチリス・サラモーリス 様による基調講演（Keynote）が行われた。

#### ② レセプションパーティ

同日夕刻、後援いただいた日本放送協会、一般社団法人日本民間放送連盟、一般社団法人

電波産業会のご来賓と、共催の一般財団法人デジタルコンテンツ協会、出展企業幹部とユーザーとのエグゼクティブ向けのビジネス交流の機会として、東京ベイ幕張ホールにてレセプションパーティを開催した。

## (6) 多彩なコンファレンスを企画

### ① 基調講演

- 11月13日(水) 「Inter BEE 2019 Opening & Keynote」  
「デジタルテクノロジーでさらに輝くこれからのスポーツ」
- 11月14日(木) 「テレビにおける放送とネット連携の現状と今後の動向」  
「5Gセッション2019」
- 11月15日(金) 「IP化する放送技術と導入事例」

### ② 特別企画基調講演

- 11月13日(水) INTER BEE CONNECTED 基調講演  
「スポーツ中継のフィロソフィー ～ TOKYO 2020に向けて」
- 11月14日(木) INTER BEE IGNITION 基調講演  
「映像の外側で、すべてがメディア化する時代のアクティビスト達」
- 11月15日(金) INTER BEE CREATIVE 基調講演  
「日本のクリエイターよ。越境せよ！」  
世界に誇る日本の技術力・精神力。今の日本の映像業界に何が  
必要か? Powered by Digicon6 Asia」

## (7) 関連団体との連携強化

- 日本放送協会：ブース出展  
一般社団法人日本民間放送連盟：「第56回民放技術報告会」を同時開催  
一般社団法人放送サービス高度化推進協会：ブース出展  
一般財団法人デジタルコンテンツ協会：DCEXPO 2019を同時開催  
一般社団法人日本ポストプロダクション協会：会員企業のINTER BEE CREATIVE参加

## (8) 国際化の推進

グローバルパートナーである国際放送機器製造業者協会のIABMによる特別講演を実施した。

## (9) 出展者数／出展小間数

部 門	出展者数			小間数
	日本	海外	合計	
プロオーディオ部門	123	212	335	416
映像表現／プロライティング部門	20	32	52	95
映像制作／放送関連機材部門	296	339	635	1,427
ICT／クロスメディア部門	87	49	136	187
合 計	526	632	1,158	2,125

○海外出展状況

37 カ国・地域／632 社

アジア地域・7 カ国・地域／130 社、北米地域・2 カ国／211 社、欧州地域・24 カ国／266 社、  
中東アフリカ地域・1 カ国／11 社、中南米地域・1 カ国／1 社、大洋州地域・2 カ国／13 社

(10) 来場者数

	13 日 (水)	14 日 (木)	15 日 (金)	合 計
来場者数	14, 255	13, 436	12, 684	40, 375

(参考：2018 年実績合計 40, 839 名)

3-3. After NAB Show Tokyo 2019

本年度のアメリカ・NAB で発表された国内企業による製品の展示および技術のセミナーを実施した。本展示会は、NAB 公認イベントとして開催。本年で7 回目の開催となった。

本事業の収支報告として、43 社の出展で、その出展小間料、セミナー参加費にて、本事業の収益合計は、12, 920, 000 円となった。それに対して、事業費支出は、12, 460, 171 円となり、法人運営(人件費、事務所家賃等)の振替 1, 000, 000 円を加算した支出合計は、13, 460, 171 円となったため、単年度の収支差引は、540, 171 円の赤字となった。本事業には、前期からの繰越金 4, 843, 757 円が有り、繰越金にて赤字を補填し、4, 303, 586 円を次年度に繰越すこととなった。

期 日：2019 年 5 月 22 日 (水)・23 日 (木) 10:00-18:00

場 所：東京・秋葉原「UDX」 展示フロア：2 階「AKIBA\_SQUARE」

プレゼン：4 階「UDX THEATER」「UDX ギャラリーネクスト 2」

主 催：NAB 日本代表事務所(映像新聞社)/一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会

後 援：National Association of Broadcasters (全米放送事業者協会)

実施結果：	出展者数	来場者数	参考値
本年度実績	43 社	2, 589 名	初日 1, 254 名、2 日目 1, 335 名
前年度	51 社	2, 533 名	

4. After NAB Show Tokyo 2020 に関して

5 月に開催予定の「After NAB Show Tokyo 2020」に関して、3 月 24 日(火)の令和 2 年度事業計画(案)及び収支予算(案)審議の書面理事会に際して、2 月より急速な国内流行にて猛威を振るう「新型コロナウイルス感染症」の先行きが見えない状況により、2 月 25 日(火)に、日本政府より発表の有った政府対策方針および、その後の政府有識者会議の説明など踏まえて、主催事務局として検討を行い、4 月に米国で開催される「NAB Show 2020」の 4 月開催の中止の公式発表を受け、NAB 日本代表事務所(映像新聞社)と協議し、令和 2 年度の事業としては開催中止を決定し、前述の「2. 協会運営事業実施報告」の(2)理事会の 3 月 24 日書面による第 47 回理事会の第 1 号審議事項「令和 2 年度事業計画(案)承認の件」にて承認をいただいた。

以 上